

「第17回細菌学若手コロッセウム」 開催報告

令和5年8月17日から8月19日の3日間にわたり、第17回細菌学若手コロッセウムを久留米シティプラザ（福岡県久留米市）において開催し、無事に終了いたしましたのでご報告申し上げます。

昨年度に引き続き学会形式での開催とした本年度は、34名の学生を含む、53名の参加者を迎え、特別講演2題、一般演題として口頭発表25題、ポスター発表47題の発表が活発な質疑応答と共に行われました。特別講演には、青井議輝先生（広島大学）、中根大介先生（電気通信大学）を招待し、最新の手法を活用した研究成果とともに、成熟した研究者の考え方を学べる刺激的な時間となりました。また、株式会社島津製作所様にランチョンセミナーを開催していただき、昨年度に引き続き企業との交流も実現することができました。特に優れた発表を行った1名に対して若コロ最優秀賞を、優れた発表を行った3名に若コロ優秀賞を授与し、ASM Young Ambassador to Japanを務められている藤木純平先生（酪農学園大学）のご協力のもと、ASM Best Poster Prizeを学生1名に授与しました。

また、参加者間の交流の場として1日目にミキサー、2日目に情報交換会を実施しました。会期全体にわたって参加者間で活発に交流が行われ、開催後のアンケートでは、「異なる分野を勉強できた」、「普段関わりのない理工学部の方々と交流し、研究についての発表も聞くことができた」、あるいは「学外の同年代の人と交流でき、研究内容から日々の研究生活で感じていることまで幅広く、ざっくばらんに話すことができた」などの感想を多くいただくことができ、本研究会が目指す、広範な分野の細菌学若手研究者の交流を達成できたと考えております。このように、本研究会の開催によって、細菌学の将来を担う若手研究者の活性化や教育に微力ながら貢献できたと考えております。

本研究会は、日本細菌学会から多大な支援を受けて開催されたものです。ご支援について、日本細菌学会理事会および会員の皆様に改めて感謝申し上げます。世話人ワーキンググループは、今後もこれまでと同様「細菌学」と「若手研究者の交流」をキーワードとして、学生の育成や若手研究者による学際的（横断的）研究の開拓、発展の場を提供することを目指しております。来年度は、代表世話人として宮田真人教授（大阪公立大学）が内定し、引き続き奥野、水谷、宮下の3名が世話人を務め、さらに4名程度の新世話人が参加する予定です。引き続き、本研究会の継続的な開催へのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

第17回細菌学若手コロッセウム

代表世話人 小椋義俊（久留米大学）

世話人：青木弘太郎（東邦大学）、奥野未来（久留米大学）、尾鶴亮（福岡大学）、永沢亮（愛知医科大学）、林匡史（立教大学）、水谷雅希（産業技術総合研究所）、宮下慎一郎（東京農業大学）、若林友騎（大阪健康安全基盤研究所）